

式辞

うぐいすの初鳴きが聞こえる頃となりました。

本日は、理事長先生をはじめ、校長先生、諸先生方のご臨席をいただきまして、ここに玉名女子高等学校、白梅同窓会 入会式を挙行できますことは、誠に意義深く、厚く御礼申し上げます。

三日にめでたく卒業式を迎えられます三年生の皆さん、誠にめでたうございます。

同窓生を代表いたしましたして、心から御祝い申し上げます。同窓生一同は、皆様のご入会を心から歓迎いたします。

今年、新型コロナが人類に移行してはじめての正月でした。明るいい気分で迎える新年の幕開けにあたり、世の中が穏やかで平和でありますようにと誰もが願ったと思います。しかし、それも束の間、最大震度7の大地震が元日の能登半島を襲い、甚大な被害をもたらしました。また翌日には、羽田空港で航空機同士が衝突する事故がありました。国際社会にあっては、ウクライナとロシアの戦争が続いており、さらにイスラエルとハマスの軍事衝突も勃発しました。いずれも収束に向かうどころかますます混乱の度を深めています。

皆さんのめでたい門出の日に、このような痛ましい話題を連ねるのは礼儀に反するかもしれません。しかし、現実には、これからの皆さんの長い人生においては、人の力ではあらがえないような災難に見舞われることもあるのです。人は皆、困難な出来事に合わないように、物事が順調に進むようにと願っておりますが

時には、ごはんが喉を通らないほど悩んだり、また「ごめんなさい」では済まない失敗をしたり、さまざまな葛藤や試練に出会うこともあるでしょう。人生の道のりは決して平坦ではなく、むしろ険しいものです。その険しい道を自分で切り開き、進む方向を決めて力強く前に進んでいかなければならないのです。

その人生の旅の手助けとして、特別な事柄ではなく、普段の生活においての心構えみたいなものを、私が感銘を受けた2つの例をあげ、少しお話しをさせていただきます。

一つ目は、新聞で読みました若狭の漁師さんのお話です。(若狭はいまの福井県にあたります) 漁師さんが言うには、「生きた魚を市場に運ぶとき、種類別に分けて、同じ魚同士を水槽に入れると弱ってしまいが、そのなかに種類の違う魚を一匹入れると弱らずに市場まで運べる」というものです。理由は「同じ種類の魚ばかりだと安心してしまい徐々に弱ってしまいが、違う魚が一匹入ると緊張して弱らない」という漁師さんの知恵にまつわるものでした。

このお話は、私たち人間の生き方に例えられます。気の合う仲間同士では雑談はもちろん、真面目な話題でも特に気を遣うことはありません。一方で、普段気の合わない人、意見が異なる人とはストレスを感じます。しかし、話をするうちに、自分と違うものの見方や考え方に気づかされ、新たな思いつきが得られることがあります。私達の普段の生活は、人と人との関わりの中で成り立っています。このようなピンと引き締まった人間関係を絶やさないことが自分自身の大きな

成長につながるのではないでしうか。

二つ目は野球選手で有名な大谷翔平選手のお話です。メジャーリーグでの輝かしい実績は皆さんもよくご存知のことと思います。この大谷選手の有名なエピソードとして、「落ちているゴミが目についたら必ず拾う」というものがあります。これは高校時代から続いているようで、理由を聞かれた大谷選手は「『運』は自分で見つけるもの、拾えるもの。他人が捨てた運を拾っているんです。」と答えたそうです。

このお話からは「品格・品位」というものについて考えさせられます。大谷選手は「運」という言葉を使っていますが、一つ一つは小さくとも毎日の行いや思いを積み重ねることによって大きな成功につながり、同時に尊敬できる人格を築き上げるのではないでしうか。選手としての記録はもちろん、ファンやメディア、審判に対する大谷選手の態度からもそのことが伺えると感じています。

さて今年は、玉名女子高校は創立100周年の節目の年を迎えます。母校の創立は大正十四年に遡ります。まだ、女性の地位が低かった時代に、社会を担う女性の育成を願って創設されました。創立者の建学の精神が、幾多の困難を乗り越え、女子教育一筋に今日まで受け継がれてきたことに、同窓生として深い喜びを持っております。

同窓会はよく、縦系と横系で織りなす織物に例えられます。卒業年度の異なる先輩・後輩という縦系、共に学んだ同級生という横系、それらが調和し助け合っ

て存在してあります。しかし、それらの系がすぐに切れ

てしまったり、色あせたものであつては元も子もありません。ここで先ほどの漁師さんと大谷選手のお話を思い出してみてください。他人同士との関係から得られる成長は、芯のあるしなやかな系をつくりだします。また、日々の行いの積み重ねは、色鮮やかで艶やかな系を紡ぐことと思います。そのような系同士で織られる織物はこの上もなく気品にあふれ、美しく価値のあるものになるでしょう。白梅同窓会はこのようになりたいと願っております。

皆さんが本校で学ばれました3年間のうちには、本校の歴史や校風、伝統と同時に、あらゆる困難に立ち向かう勇気と、最後までやりぬく粘り強い精神力を身につけられたものと確信しています。卒業後も本校の卒業生であるということに誇りを持って過ごして欲しいと思います。

ここに新たなスタートを切られる新会員の皆様の未来が希望にあふれ、幸多からんことを心からお祈り申し上げます。

最後になりましたが、理事長先生、校長先生はじめ諸先生方のご健康と、母校のますますのご発展をお祈り申し上げ、同窓会入会式の式辞と致します。

令和6年3月1日

白梅同窓会 会長 渡邊典子